

# 障害者支援団体がサービス開始

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振るサービスを、IT（情報技術）を活用した障害者支援に取り組む団体「アダプティブテクノロジー」が無料を始めた。同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報の提示の仕方を変換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TPO（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。

# サイトの漢字に無料ルビ

利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示されるが、同じ機能の市販パソコン用ソフトと違って無料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。

鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活

## IT活用構想への第一歩

用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を受ける一人だが、現在の障害者支援技術には不自由さを感じるといふ。

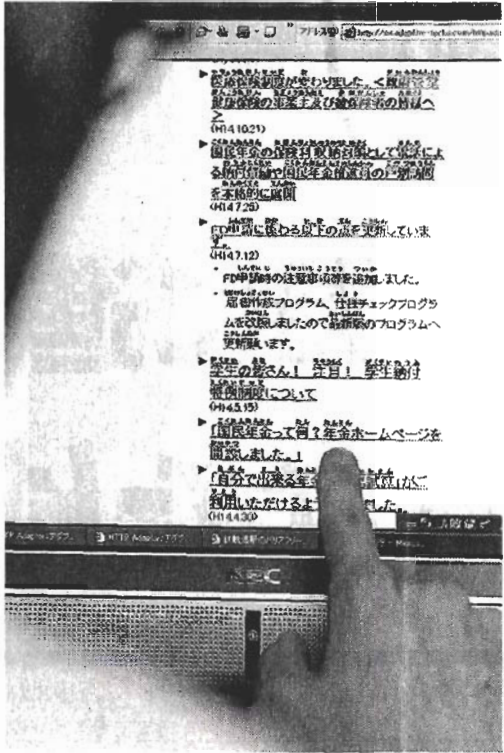
例えば、音声読み上げソフトでパソコン画面の意味をつかまうとする、文章を最初から最後まで聞いていなければならぬ。じれったいが、現状では障害者が、支援技術の仕様に合わせる形で利用せざるを得ない。

鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字や音声、動画、静止画などを組み合わせて、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供する」というシステムを理想として思い描く。

「漢字が苦手」という人に合わせてルビを振り、読みやすくするサービスはこの構想の具体化の第一歩だ。今後は平仮名のルビの代わりに、英語や中国語など外国語の単語を表示したり、その単語に関連した画像や音声を付けたりするなど、利用できる人の範囲を拡大していくという。外出先で見掛けた看板などの文字もカメラ付き携帯電話で撮影してメールで送れば、ルビを振って読み方を教えるようなサービスの実現も目指す。

「アダプティブテクノロジー」で事務局を担当する、バリアフリー型ホームページ制作会社「アイ・クリエイツ」（東京都町田市）の羽川和男代表は、「こうした支援技術が実現すれば誰にとつ

## 読めない人や外国人向け



ても便利になると思う」と意義を語る。鳥原さんも「日本人や障害者だけでなく、全世界の人が使えるようにしていきたい」と意気込んでいる。

「アダプティブテクノロジー」のホームページは、<http://www.adaptiveit.techs.com/>

▲ホームページの画面上の漢字にルビを振って標示される